

がん新薬研究開発

横浜市立大 エイズワクチンも

開発なども選定した。

生活習慣病や免疫分断では、生活習慣病関連の遺伝子解析に基づいて、患者個人に匹じた治療を行うオーダーメイド医療の展開や、予防管理支援のためのネットワーク構築、エイズワクチンの開発を選んだ。エイズワクチンの治験は来年にも中国やインドで始める。

横浜市立大学先端医科学研究センターは二十六

ものでは来春にも隣国
(すいせう)がんの残存

疾患の克服」をテーマに、
学内で公募した。

日、学内で続けてきた基礎研究を生かして、がん新薬やエイズワクチンの開発などにつながる九件の研究開発プロジェクトを発表した。今年度の予算は計五千万円で、早い

範囲や、効果のある抗がん剤を特定できる遺伝子変異診断キットを実用化する。

がん関連では、簡単な血液検査で乳がんの有無などが分かる早期診断マーカーを開発。再発や転移の原因になると考えられている「がん幹細胞」の働きを抑える治療法の

九件のプロジェクトは「がん制圧」と「生活習慣病や免疫・アレルギー

「がん幹細胞」の働きを抑える治療法の